

四旬節第一主日

福音朗読 ルカ 4・1-13

2022.3.6

カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

誘惑は、人に進歩の機会を提供します。浄化と改善、信仰を強固にすることができます。一方では罪を犯すリスクもあります。誘惑は邪悪な挑戦ではなく、成長を刺激して成熟する過程でもあります。

人生には色々な誘惑が満ちています。わたしたちは誘惑の中を通り抜けながら生きています。日常生活の中で、いつでもどこでも誘惑に直面する場面があります。皆さんは自分の生活の中でどんな誘惑に直面したことがありますか？ 金銭？ 権力？ 名誉？ 性的？ 誘惑は罪ではなく、試練です。

今日の福音の中で、イエス様は3回の誘惑に直面しました。その時、イエス様は人間として疑うこともありました。しかし、彼は人間の弱さから逃げませんでした。この試練を受け入れ、乗り越えました。イエス様は40日間荒野で過ごしました。彼は強い信仰で完全に誘惑に打ち勝ちました。

一つ目の誘惑はパンの誘惑です。パンは、人間に必要な基本的なニーズを表します。例えば食物、病気、欲求、疲れ、ストレス等があります。しかし、人は生まれて享樂するのものと勘違いする人もいます。自己中心で、不公平扱いしたり、貧しい人や弱い人へ暴力振るったり、見栄っ張りで物質崇拜などと、心がだんだん邪悪になってしまいます。従って、神様の言葉に導かれることがとても大切です。

二つ目の誘惑は権力です。人と人の関係作りは、権力で威圧することではありません。支配と奉仕、競争と協力、コントロールと自由などの中から常に正しく選択肢を選ばなくてはなりません。権威は他人に奉仕することです。権力は他人を支配することです。権力への欲望はどこにでも存在します。例えば、政府や会社や家庭内、学校などにも存在します。

三つ目の誘惑は、神様と人間との関係の試練です。人間には生きていく上で信頼関係が必要です。もしわたしたちの生活の中で、誰も信じることができないなら、とても悲しいことです。特に自分と神様との関係は信頼がとても大切です。神様とわたしたちとの関係は、無条件で信じることです。これこそが本当のわたしたちと神様の関係です。

たとえわたしたちが祈っている願いが叶わなくても、神を信じて続けることこそが本当の信仰です。

イエス様は誘惑されず、“悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスをから離れ”ました。

戦争、疫病、利益の後ろには邪悪が隠れています。だからこそ、四旬節にわたしたちは断食と祈りを捧げ、悔い改めながら、色々な誘惑に直面しなければならない。

特に今のウクライナ戦争でたくさんの人々が苦しんでいます。一日も早く平和な生活に戻れますように祈りましょう。